



愛知学院大学歯学部准教授 稲垣 幸司さん (59)

防ぐ 未来の喫煙者

中部 ひと模様

「たばこに含まれる有害物質の数はいくつだろう」。たばこの絵が描かれたスライドを背景に、子供たちに問いかける。喫煙は肺がんだけではなく、脳卒中、早産など健康全般に影響を及ぼすことを、丁寧に解説していく。「この教室から未来の喫煙者が出ないように」。愛知県内の小中高校を中心に行う出前授業「脱たばこ教室」の講師役は、そう願いながら、授業を続ける。

毎年1000人に出前授業

初めて「教壇」に立ったのは、2004年。最初は保健所からの依頼が中心で、参加者の多くは成人の喫煙者だった。図解や写真を使った授業が分かりやすいと、評判が広まった。授業に参加した教員から、たばこに関心を持ち始める小中学生へ講義してほしいという声が相次ぎ今や、小中高校生を中心に毎年、千人以上に授業する。

アイデアを生む運動



三重県朝日町生まれ。1986年、愛知学院大学大学院歯学研究科修了。口腔(こうくう)内の状態が、全身の健康につながることを知り、歯周病学を専攻する。

1回の授業は約90分間。参加者にストローで呼吸してもらい、長年の喫煙によって肺や気管支に炎症が生じた時の息苦しさを体験してもらおう。「何となく健康に悪いという認識があったものの、具体的にどう影響を及ぼすのかわかっていなかった。将来、たばこを吸い続けられ、どうなるのかを実感してほしい」との思いがある。

出前授業を始めてからは、03年施行の健康増進法という間に10年以上が経過した。ここまで続けてきたのは、たばこの影響を受ける子供たちを、大病院の診療で目の当たりにしてきたからにはかならない。

患者として病院へくる子供を診療していると、歯肉の変色に気が付くことがある。健康な歯肉は薄いピンク色をしているが、たばこの刺激で色素が沈着し、茶色くなっている。多くの場合、子供本人には喫煙歴が及ぼすのかわからない。「茶色い歯肉は口の中からのSOS。周りにいる大人の喫煙による受動喫煙の影響」とみる。

出前教室を始めたころは、03年施行の健康増進法で、学校や病院など公施設設の管理者への受動喫煙防止が義務づけられた。役所や商業施設などの多くの人が集う施設での分煙化が本格的に始まった年だった。